

アナリスト レポート

緩やかな回復基調にあるものの、 足もとでは弱さがみられる

県内景気 天気図



- 凡例
- 晴れ 晴れ一部曇り
 - 曇り 曇り一部雨
 - 雨
- 前月比
- 上昇・好転
 - 横ばい
 - 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、プラスチック製品やその他などで低下したものの、生産用機械や汎用・業務用機械などで大幅に上昇したため、前月比では3か月ぶりに上昇した。需要面では、百貨店・スーパー販売額を全店ベースで見ると、好調の続く家電機器に加えウエイトの高い飲食料品が6か月ぶりに増加したものの、衣料品をはじめ他の品目で消費税率引き上げに伴う駆け込みの反動減が続いているため、全体では3か月連続で減少している。大型専門店などの他の小売業態では、ドラッグストアが2か月連続で増加しているものの、家電大型専門店とホームセンターはともに3か月連続で減少し、コンビニエンスストアは3か月ぶりの微減となったため、小売業6業態計の売上高は3か月連続で減少した。これは消費税関連の反動減が続いているためとみられる。今後の動向を注視する必要がある。また、乗用車の新車登録台数と軽乗用車の販売台数はともに4か月連続で減少し、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は、鉱工業用が2か月連続かつ大幅に増加したものの、商業用が2か月ぶり、サービス業用も8か月ぶりに大幅減少したため、3業用計では2か月ぶりに減少した。一方、新設住宅着工戸数は、持家が6か月ぶり、貸家が2か月ぶり、分譲住宅も4か月ぶりにすべて大幅に増加したため、全体では2か月ぶりの大幅増加となった。また、公共工事の請負金額は5か月連続で大幅に増加している。雇用情勢をみると、新規求人倍率と有効求人倍率はともに2か月ぶりに大きく低下した。常用雇用指数は2か月ぶりに増加したものの、製造業の所定外労働時間指数は11か月連続で減少している。

京滋の景気動向

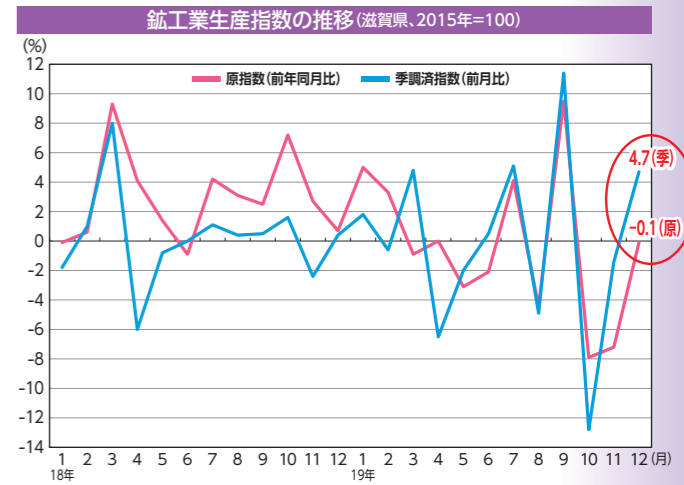
京都府・滋賀県の景気は、基調としては緩やかに拡大しているものの、足もと、新型コロナウイルスの影響から弱めの動きがみられている。需要面をみると、個人消費は、雇用・所得の改善に支えられて、基調としては緩やかに増加しているものの、足もとでは、新型コロナウイルスの影響等により弱めの動きとなっている。観光は、足もと、新型コロナウイルスの影響により大きく減少している。設備投資は、高水準の企業収益を背景に、新製品対応投資や改装投資等を中心に、着実に増加している。住宅投資は、分譲は増加傾向にあるものの、貸家や持家に弱めの動きがみられていることから、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、災害復旧関連工事や高速道路建設工事を中心に増加している。もっとも、生産は、IT関連需要の鈍化や中国経済

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

「鉱工業生産指数」の前月比は 3か月ぶりに上昇

・鉱工業生産指数(2015年=100)の「原指数」(2019年12月)は105.2、前年同月比-0.1%となり3か月連続で低下したものの、「季節調整済指数」は106.2、前月比+4.7%となり、3か月ぶりに上昇した。季節調整済指数の3か月移動平均値(11月)は103.5、前月比-3.6%で、3か月連続で低下。これは、10月単月の大幅減(同-12.8%)の影響とみられる。
(※滋賀県の鉱工業指数は、2015年=100に基準改定されましたので、遡及修正しています。これに伴い業種分類も変更されました。)
・業種別季節調整済指数の水準は、「生産用機械」(177.1)や「化学」(123.5)、「汎用・業務用機械」(119.5)などは高水準で推移。一方、「電子部品・デバイス」(56.1)や「窯業・土石製品」(85.2)などは低水準。
・前月との比較では、上昇したのは「生産用機械」(前月比+27.7%、

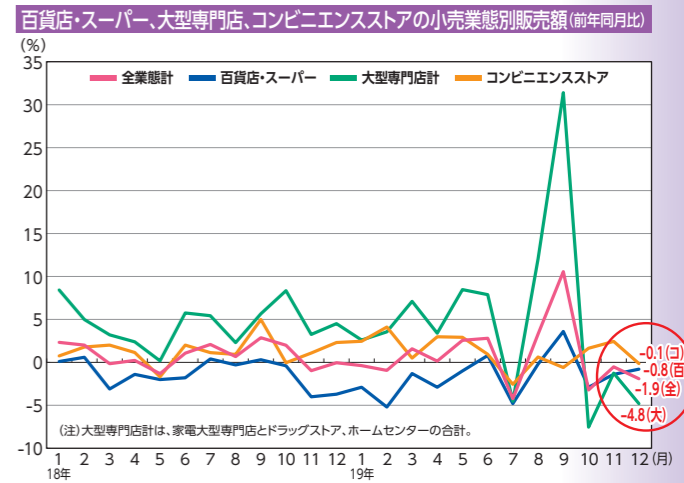
なかでも半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置)、「汎用・業務用機械」(同+18.2%、なかでも運搬装置)など。一方、低下したのは「プラスチック製品」(同-3.5%)、「その他」(同-3.8%)など。



「小売業6業態計売上高」は 3か月連続で減少

・百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は99店舗)(12月)は、23,690百万円、前年同月比-0.8%となり3か月連続で減少。これは、消費税率引き上げに伴う駆け込みの反動減によるものが続いているためとみられる。品目別では、ウエイトの高い飲食料品は6か月ぶりに増加(同+0.4%)、家電機器も10か月連続かつ大幅に増加したものの(同+15.1%)、衣料品は3か月連続(同-8.8%)、身の回り品も3か月連続(同-3.8%)、家庭用品は2か月連続かつ大幅に減少している(同-10.3%)。「既存店ベース(=店舗調整後)」では前月に続きすべての品目で減少したため、全体では3か月連続で減少(同-3.6%)。
・大型専門店では、「ドラッグストア」(全店ベース=店舗調整前、12月、202店舗)は6,934百万円、同+4.0%で、2か月連続で増加。しかし、「家電大型専門店」(同42店舗)は4,394百万円、同-14.4%、「ホームセンター」(同63店舗)は3,561百万円、同-7.2%となり、ともに3か月連続で減少。「コンビニエンスストア」(同566店舗)は10,180百万円、同-0.1%で3か月ぶりに微減となった。
・これらの結果、小売業6業態計売上高(12月)は、48,759百万円、同-1.9%となり3か月連続で減少。消費税関連の駆け込みの反動

減が続いているためとみられる。「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(20年1月)は「普通乗用車(3ナンバー車)」が4か月連続で大幅減少しているのに加え(1,375台、同-14.1%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も4か月連続で大幅減少したため(1,061台、同-11.6%)、2車種合計でも4か月連続の大幅減少となっている(2,436台、同-13.0%)。「軽乗用車」も4か月連続で減少(1,782台、同-0.9%)。



「民間非居住用建築物着工床面積」は 2か月ぶりに減少

・民間非居住用建築物着工床面積(20年1月)は、「鉱工業用」が2か月連続かつ大幅に増加したものの(18,510㎡、前年同月比+84.5%)、「商業用」が2か月ぶりに低水準かつ大幅に減少(633㎡、同-87.1%)、「サービス業用」も8か月ぶりに大幅に減少したため(3,354㎡、同-67.9%)、3業用計では22,497㎡、同-11.5%となり、2か月ぶりに減少した。
・トラック新車登録台数(1月)は「普通トラック(1ナンバー車)」が2か月連続で大幅減少し(88台、同-25.4%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」も4か月連続で減少しているため(179台、同-9.6%)、2車種合計では4か月連続かつ大幅の減少となっている(267台、同-15.5%)。

